



防煙教室、いのちの教育から学ぶ

10月は外部から講師の先生を招き、健康や命に関わる学習をしました。

防煙教室では、喫煙すると体にどのような影響があるのかを学びました。たばこは体に良くないというのは何となく分かっていますが、初めて知ったこともあったようです。例えば、ニコチン依存症になるとたばこをやめられなくなったりすること、「サー



ドハンドスモーク」といって、喫煙者の衣服や髪の毛に付着した有害物質が原因で健康に被害を受けることなどです。自分が気を付けていても難しい場合があることを知りましたが、自分の健康のため



めに防煙したいと思うことができました。また、もし喫煙を誘われたらどう断るとよいかも考えることができました。興味本位で吸わない、友達に誘われても断る勇気を持ち、自分の健康のために、防煙してほしいと思います。



いのちの教育では、思春期になると体が変化して大人の体になっていきますが、どのように変化してくるのか、そして、いのちがどのように誕生してくるのかについて教

えていただきました。また、妊婦さんの疑似体験をして妊婦さんの大変さを知ったり、赤ちゃんの抱き方を教

後期組織での生活が始まりました

わったり、いずれ経験するであろうことについて学んだ貴重な時間となりました。自分がどのようにして生まれてきたのかを知り、いのちの大切さについて学ぶことができました。

後期になり、新しい学級組織になりました。新たな役割になった人も多く、どの学級もやる気に満ちあふれています。例えば、みんなが元気にあいさつできるように玄関に立ってあいさつ活動をしていたり、みんながいつも整った環境で生活できるようにロッカーの整頓にこだわって声を掛けたりしている人がいます。それぞれが自分の役割をやりきるのはもちろん、誰もが気持ち良く生活できる学校にするにはどうしたらよいかを考え、工夫して生活していきましょう。